

フクシマ連隊キャラバン報告書

全港湾名古屋支部 赤木敬

キャラバンは今回で 3 回目の参加となります。今年のキャラバンはリモートでの事前学習から始まりました、有識者の方や実際に震災を経験し、キャラバン隊として活動してきた方の話を聞いて原発の恐ろしさや現地住人の思いを知り、キャラバンに対する心構えが準備できました。事務連絡の部分で地域によっては情報が不足しているのか多少のトラブルはありましたがなんとか当日集まり、東北の青年部が温かく迎えてくれた時は安心しました。東京からのメンバーが遅れて来ましたが、懇親会で全員集まってみると見知った顔も多くすぐに打ち解けることができました。

2 日目には被災地の近くを走行しながら道中説明として写真つきで当時の状況と現状について教えて貰いました。感想としてはごく普通の田舎道を走っているような感覚でした。3 年前や 7 年前に参加した頃と景色が違いすぎるのか、震災の被害などを肌で感じるようなどんよりとした雰囲気はありませんでした。2019 年に参加したころと比べても放射線に対する危機感などが薄まっているように思いました。復興が進んでいるのは良い事なのですが実際に風化して惨状が忘れられていく空気感を感じて恐ろしくなりました。津島地区の家見学と伝承館では震災当時の話とそのまま放置されている家を見て、目に見えない放射線から避難しなければならなかった現地の方々の恐怖や、一度原発事故が起こってしまうと取り返しがつかなくなるということを再認識することができました。

3 日目の要請行動では朝早くからコース別に分かれて行動しました。配られている各自治体の資料をもとに東北青年部が主導してくれて自治体ごとの考え方の違いや、キャラバン隊への対応など勉強になりました。

最終日には代々木で集会を行い、関東を中心に全港湾の仲間が駆けつけてくれました。今回のフクシマ連帯キャラバンでは風化して忘れ去られる恐怖を 1 番に感じました。震災から 15 年が経ち、瓦礫や割れた道路などは整備され、街は以前より綺麗に作り替えられていき地震や津波の被害はどんどん修復されていました。しかし原発による放射線汚染の被害は未だ続いています。今回見たもの学んだことを伝え、原発廃炉に向けて活動し続けることが自分の役割であると感じました。今回のキャラバンではたくさんの貴重な体験をすることができました。企画準備に携わってくださった方々には本当に感謝しています、ありがとうございました。